

武蔵大学社会学部グローバル・データサイエンスコース(GDS)

ガイダンス資料

社会学部教務委員長

松井 隆志

(1) GDS コースの概要

GDS コースは、グローバルかつ学際的な指向をもち、社会学的視野とデータサイエンス・スキルを修得した学生を育成するために、所属学科にかかわらず、幅広くかつ奥深い学修を目指す、社会学科、メディア社会学科に共通のコースです。2017 年度に新設され、グローバル化する社会への対応が必要な企業、政府組織、非営利組織へ人材を輩出しています。

GDS コースは、社会学科・メディア社会学科両方に配置される専攻コースである。1 年次に一部学期分割型科目を取り入れ、海外での英語学習の機会を設けるとともに、短期集中で大学での学びに必要な基礎的な能力を獲得する。2 年次以降は、多様な方法科目のもと、社会調査、分析の技法を多数学ぶとともに、留学やインターンシップといった体験を重視した学びを「GDS 実践」として修得する。卒業論文、卒業制作に加え、卒業活動を卒業要件に加えることで、より社会的な実践力の高い学部教育の集大成の機会を設けている。

学生は入学した学科(社会学科もしくはメディア社会学科)に所属し、GDS コースに所属します。**GDS コースに所属した場合、所属する学科の卒業要件とは異なった、GDS コース固有の卒業要件が定められています。**

GDS コースに所属して卒業した場合、学士(社会学)の学位が授与され、GDS コースを修了したことになります。GDS コースの修了証も発行されます。

(2) GDS コースへの所属

① GDS コース所属の手続き

**GDS コース所属にあたっては、入学前に「GDS コース所属希望届」、「志望理由書」および英語力を証明する書類の写しを提出しておくことが必要となります。**

**なお、2026 年 4 月入学予定者向けの GDS コースガイダンスは、2026 年 3 月 14 日(土)14:00-15:00 に実施いたします。GDS コース所属希望者は大学ウェブサイト上に公開されている情報をよく確認し、ガイダンスへ出席および入学前に提出が必要な書類について理解してください。**

「社会学部グローバル・データサイエンスコース(GDS)所属希望届」は、社会学科、メディア社会学科に 1 年生として所属する予定の学生すべてに提出の権利があります。ただし、**GDS コース所属希望者が著しく多い場合は、入学前に行われる英語プレースメントテスト等の英語力を確認できる成績および志望理由書によって、コース所属の可否を決定します。コース所属希望者は 3 月末の英語プレースメントテストを必ず受験してください。**GDS コース所属の可否は 4 月初旬に発表されます。なお、GDS コース所属を前提とした入学試験の合格者については、所属希望届と志望理由書を提出することで、英語プレースメントテスト等の成績に関わらず、GDS コース所属が許可されず(この場合も英語力の確認のため、3 月末の英語テストは必ず受験してください)。

② GDS コース所属に必要な費用

1) コース登録料

GDS コース所属にあたっては、所定の GDS コース登録料が必要となります。コース登録料は 1 年間 6 万円で、卒業するまでの 4 年間で 24 万円です。(留年等で卒業期が伸びた場合は、その分の登録料が追加してかかります。) 指定の期日までに支払いがない場合、コース所属が取消となりますので注意してください。

2) 海外英語研修、GDS 実践等の費用

GDS コース所属学生が 1 年次に履修する海外英語研修に必要な諸費用や、「GDS 実践」の修得に伴うさまざまな留学、インターンシップ、ボランティア活動のための諸費用は、すべて学生の自己負担となります。

3) 奨学金

2)で示した諸費用の学生負担を軽減するため、GDS コース所属学生に対して様々な奨学金を設置しています。1 年次Spring2 で実施する海外英語研修では研修参加者全員に 10 万円の奨学金、成果連動型として、IELTS スコアが 5.5 以上に達した研修参加者にはさらに 10 万円の奨学金が給付される予定です。GDS 実践に伴う奨学金については、海外渡航をして実践活動を行い、所定の報告書を提出して単位を修得した場合、渡航先に応じて、その渡航費用を補填する奨学金が給付される予定です。

(3) GDS コース所属における学修の流れ

GDS コースでは、下表のような流れで 4 年間の学修を進めていきます。

学年	学期	履修内容
1	春学期	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 外国語科目は「英語 I」を週 4 回履修し、「海外英語研修 A・B・C」の履修に備える。</li> <li>■ 専門科目は「初年次基礎ゼミ」「コンピューティング基礎」「社会学原論 A」「社会調査方法論基礎 1」を各週 2 回履修し、秋学期からの専門科目の履修に備える。</li> </ul>
	秋学期	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 「海外英語研修 A・B・C」で集中的な英語のトレーニングを実施。</li> <li>■ 総合科目で「クリティカル・シンキング」の履修を推奨。</li> <li>■ 外国語科目は「英語 I」を週 2 回履修し、「海外英語研修 A・B・C」後の英語力をさらに向上させる。</li> <li>■ 専門科目は「初年次応用ゼミ」「社会調査方法論基礎 2」「データサイエンス基礎」「Introductory Sociology」「メディア社会学」「社会統計学 1」を履修。社会学研究およびメディア社会学研究の基礎を修得する。</li> </ul>
2	春学期	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 外国語科目では「英語 II」を履修し、より深く英語を身につける。</li> </ul>
	秋学期	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 「Academic Writing(論文の書き方)」の履修を推奨。</li> <li>■ 「方法論ゼミ 1・2」を履修し、卒業研究の方法論の修得を目指す。</li> </ul>
3	春学期	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 「専門ゼミ 1」を履修し、経験を活かした卒業研究をスタートさせる。</li> </ul>
	秋学期	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 「専門ゼミ 2」を履修し、経験を活かした卒業研究を軌道にのせる。</li> </ul>
4	春学期	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 「卒業研究ゼミ」を履修し、卒業研究の成果物の作成を開始する。</li> </ul>
	秋学期	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 「卒業論文」「卒業論文・卒業制作」を履修し、成果物を提出し口述審査を受ける。成果物は、卒業活動にもとづく報告書でもよい。</li> </ul>

■ 総合科目・全学対象専門科目等の英語で開講される科目の履修を推奨し、1 年次の英語の集中的トレーニングの成果を実践的に用いる機会を設ける。

■ 一定期間以上の異文化体験・現場体験の機会をもち、「GDS 実践」として修得する。

■ 大学院進学奨励学生制度を利用して大学院科目の履修も可能であり、より深い学問の思考に触れることができる。

#### (4)-1 GDS コースにおける語学履修の考え方

GDS コースではさまざまな外国語の中でも、英語の修得に最も力を入れています。英語のみでの履修で卒業単位の中のすべての外国語の単位を充足することも可能です。自身の関心に応じて、どの言語を在学中に学ぶか、よく検討してください。

#### (4)-2 GDS コースにおける英語履修の考え方

GDS コースでの英語の学びでは二つのゴールが設定されています。

- 一つ目のゴール: 海外留学の参加、英語で行われる授業の履修など、基礎的な英語力(各種英語試験スコア)獲得
  - 二つ目のゴール: 社会学部の学びの中で、自分自身で社会を分析した結果を英語で情報発信できる能力の獲得
- この中でも特に一つ目のゴールとして、IELTS5.5 相当の英語力を獲得することを目標としてください。この目標は Spring 2 での海外英語研修で達成することが強く期待されます。達成できなかった場合、継続的に IELTS の受験が推奨されます。

この二つのゴールを達成するため、GDS コースでは以下のような英語のカリキュラムが組みられています。

一つ目のゴール達成にむけて開講されている授業

- ・1 年次 Spring 1 で、週 4 回の英語の授業を受けます。[「英語 I」:2 科目 2 単位、必修外国語]
- ・1 年次 Spring 2 で、6 週間の海外英語研修に行きます。[「海外英語研修 A・B・C」:3 科目 6 単位、選択外国語ですが、すべて総合科目としての算入が推奨されています]

二つ目のゴール達成に向けて開講されている授業

- ・1 年次秋学期で、週 2 回の英語の授業を受けます。[「英語 I」:2 科目 2 単位、必修外国語]
- ・2 年次で、週 1 回の英語の授業を 1 年間受けます。[「英語 II」:2 科目 2 単位、必修外国語]
- ・1 年次秋学期に、週 1 回英語で社会学を学ぶ授業を受けます[「Introductory Sociology」:1 科目 2 単位、必修理論科目]

さらに英語力を高めるためのオプション

- ・1 年次秋学期以降に、英語で実施される様々な内容の総合科目の授業を受けます。
- ・2 年次に、週 1 回の英語の授業を追加します。[「プラクティカル・イングリッシュ」等:2 科目 2 単位、選択外国語]
- ・2 ～ 3 年次に「Academic Writing(論文の書き方)」(英語アカデミックライティングの授業)を受けます。

#### (4)-3 海外英語研修

海外英語研修は、GDS コース所属者が英語の能力を高め、IELTS 試験で高得点を上げることができるよう、例年 6 月～7 月に実施されます。この研修参加の目標は IELTS の overall カテゴリーで 5.5 以上のスコア(各項目で 5.0 以上のスコア)を取得することです。

早期に集中的に英語の 4 技能を向上させることにより、2 年次の方法論ゼミでの英語とデータサイエンスを組み合わせた学びを可能とするとともに、2～3 年次で協定留学(長期留学)に挑む力をつけます。GDS コースでは、協定留学は必須ではありませんが、英語運用能力の向上、異文化体験、多様な背景・価値観の人々との交流や学びのために、強く推奨します。

#### (5) データサイエンスの学び

**GDS コースでは、情報科学系方法科目をはじめとする多様な方法科目を、通常の社会学部の学生よりも多く学ぶ必要があります。**

〈卒業に必要な方法科目の修得単位数〉

通常の社会学部学生:12 単位(うち必修 6 単位)

GDS コース所属者:20 単位(うち必修 12 単位)

※ どちらも卒業要件上の修得すべき単位数は 124 単位です。

特に **GDS コース所属学生は「データサイエンス基礎」が必修科目となります。**

データサイエンスに関する学びでは、文理の専門性を問わず今後の社会で活躍するにあたって身に付けるべき新時代の教養(リベラルアーツ)としての基礎的なデータ分析・データ思考の方法から、高度な統計的な技術やコンピュータスキルを必要とするデータ分析の方法まで、幅広く学ぶことが可能です(『MUSASHI UNIVERSITY GUIDEBOOK』の科目表、方法科目の欄を参照)。とくに、実社会で行われているデータサイエンスの実情、技法を学ぶ「データサイエンス特別講義」の授業では、実際の日本企業におけるデータサイエンス実践事例を企業所属のデータサイエンティストから教えてもらうことが可能です。また、「データサイエンス応用」の授業では、マーケットデータの分析、発表を行う実践的な取り組みをおこないます。これらの授業では、GDS コース所属学生に優先履修の機会を設けます。

#### (6)GDS 実践

**GDS コース所属者は、2～3 年次の適切な時期に「GDS 実践」を修得しなくてはなりません。**どの学年のどの学期に修得するかは、自身の履修計画に従って慎重に判断してください。「GDS 実践」では、学生自身による主体的な活動(留学、海外ボランティア、海外インターンシップ、データサイエンス関係のインターンシップなど)が求められます。

「GDS 実践」の具体的な修得方法は以下の通りです。

##### ①春学期あるいは秋学期に開講される集中授業の「GDS 実践」を履修し、修得します。

この授業では、3 回程度の事前指導があり、その中で自身がどのような活動を行うか計画します。

##### ②計画に基づいて実践活動を行います。実践活動の例は以下の通りです。

協定留学・認定留学・TUJ との単位互換プログラム

国際ボランティア・国際インターンシップ

国内での国際関連のボランティア活動、国内でのデータサイエンス関係のインターンシップ活動

その他、「GDS 実践」の授業内で特に認めた活動

##### ③実践活動後に報告書を提出します。

なお、「GDS 実践」で国際ボランティア・国際インターンシップに参加する場合は、渡航先に応じて一定の学内奨学金が用意されています。**海外渡航費用および旅行傷害保険料の実費を補填するものとして、一定の金額内で支給されます。** 渡航費・傷害保険料以外に必要なとされる**国際ボランティア・インターンシップ参加費用は個人負担となります。**

#### (7)卒業活動報告書による卒業

GDS コース所属学生は卒業論文・卒業制作に代えて、卒業活動報告書を提出することができます。卒業活動報告書とは、在学期間中に、おおむね半年間あるいはそれ以上の、社会的意義のある活動(国内外での活動、あるいは国内でのデータサイエンスに関わる活動)に従事した上で、その活動について記述した報告書のことです。

なお、卒業活動報告書において報告できる「活動」は正課の授業、課外活動を除きます。したがって、大学でのサークル活動、「GDS 実践」として単位修得した活動は認められません。

#### (8)英語卒業論文

GDS コース所属学生の中でも、在学中に 1 年程度留学し、且つ IELTS6.5 以上の学生は、英語卒業論文(5000 語以上)を提出することができます。

#### (9)学科をまたいだ、専門ゼミの履修

GDS コース所属学生はその所属学科に関わらず、社会学科とメディア社会学科、両学科の専門ゼミ、を希望しエントリーすることができます。

(10)学科をまたいだ展開科目の履修

GDS コース所属学生は、社会科学の展開科目とメディア社会科学の展開科目の両方を展開科目として履修することができます。

(11)履修ガイダンス及び相談会

GDS コース所属学生を対象とした履修ガイダンス及び相談会を、入学年次の 4 月に行われるガイダンス期間に実施します。GDSコース特有の履修の方法を再確認するとともに、学生の英語力、数学力をヒアリングしたうえで、大学生活で実現したいこと、将来のキャリアの目標を達成するための履修計画を指導します。

(12)GDS コース所属の取りやめ

GDS コース所属者は、原則として卒業まで通常コースに変更することはできません。

本資料の内容は一部変更される可能性がありますので、予めご了承ください。